

# 健友俳壇 第二十一回

(令和六年七月)

健友俳壇は、会員の皆様が気軽に参加できる事業として、会報第72号(平成26年7月号)から掲載が始まり21回目となりました。今回は、春の「健友旅行」が実施されました。

「一般の句」27句、「旅行の句」27句の投稿があり、板橋区俳句連盟の上田 桜(うえだ さくら)氏に選句と講評をいただきました。

## 一般の句

### ●特選(三句)

静けさの

土間に守宮の

夜ごと出づい

島田 あい

家を守ってくれるという守宮。土間の冷たさが良いのだろうか、夜毎出てくる作者も守宮を守っているかのよう。

一人聴く

梅雨の足音

夜のしじま

梅澤 輝男

梅雨の雨音と夜の静寂と、そして作者。しっとりとした作品。

夏の日や

子の顔忘る

母笑顔

高橋 洋子

夏の日のひと日、認知症のご母堂が我が子の顔を忘れて笑顔を向けてくれた。笑顔で多少は救われる思いがした。

### ●入選(四句)

日盛りに

足首ひたす

有磯海

武居 正次

有磯海は富山湾の別称、歌枕である。一日のうちで最も日差しの強い時間帯に足首まで浸している有磯海の波の音が聞こえてきそう。

春空や

声高々に

童歌

日野原 志津江

春空に渡る童歌。美しい旋律が聞こえてきそう。

乗せるかな

そんな氣にさす

花いかだ

日向 日出子

上五は。乗せるかな? 乗れるかな? 花筏を見ているとなぜかそんな氣になってくる

鶯の

初音や孫の

歌に似て

茂木 良一

鶯の初音が、お孫さんの歌に似ているようだ。思わず、鶯の初音をもう一度聞いてみたくなった。

## 健友旅の句

### ●特選(三句)

河渡る

犬吠崎に

白波立つしらば

細井 榮一

寒々とした犬吠崎の様子が良く出ている。

水郷の

ジャージャー橋に

春の雨

宮川 修一

水郷のジャージャー橋が面白い。

旧交を

温む春や

バスの旅

梅澤 輝男

寒バス旅の和やかさが伝わってくる。

